

奥羽・羽越新幹線の整備実現を求める意見書

平成23年3月に発生した東日本大震災を契機として、災害時におけるリスク分散や太平洋側と日本海側とのリダンダンシー機能の確保が強く求められる中、「日本海国土軸」の重要性が再認識されており、災害に強い多軸型の国土形成の観点からも、全国的な幹線交通ネットワークの形成が急務となっている。

本県の鉄道網において、ミニ新幹線である山形新幹線については、在来線区間を走行するために、豪雨や大雪、さらには野生動物との衝突事故等による運休や遅延が発生するなど、高速鉄道に求められる安定輸送の面で大きな課題を抱えている。また、羽越本線については、平成17年12月のいなほ号脱線事故の後、安全対策が進められてきたものの、依然として強風等による運休や遅延が多発している。

このため、日本海側の内陸部及び沿岸地域を縦貫する、フル規格の奥羽新幹線及び羽越新幹線の整備が不可欠である。

よって、国においては、昭和48年に国の基本計画に位置付けられてから現在まで進捗がない奥羽新幹線及び羽越新幹線の早期整備を図り、特に、そのために必要な整備計画策定に向けた法定調査を早急に開始するよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成29年3月16日

衆議院議長	大島理森	殿
参議院議長	伊達忠一	殿
内閣総理大臣	安倍晋三	殿
総務大臣	高市早苗	殿
財務大臣	麻生太郎	殿
国土交通大臣	石井啓一	殿
内閣官房長官	菅義偉	殿

山形県議会議長 野川政文